

## 1 概要

**目的：**東京における共通課題や取組、自立支援協議会活動の活性化策などについて、本会議での検討等を踏まえた講演等を実施し、広く関係者へ情報発信を行い、自立支援協議会活動の普及啓発を図る。

**日時：**令和2年1月20日（月曜日）13時20分から16時40分まで

**場所：**東京都社会福祉保健医療研修センター 1階講堂

**対象者：**一般都民、障害当事者・家族、地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員、相談支援事業所等職員、障害者支援に携わる者、その他

**広報：**チラシの作成・配布（約4,800枚）  
当センター、東京都障害者サービス情報ホームページへの掲載  
区市町村主管課長会等での説明、周知依頼  
「福祉保健」11月号掲載、区市町村広報誌等への掲載依頼

**参加者数：**215名

(1) 受講者 174名（申込者 220名）

所属等別内訳（複数該当があるため、受講者数と一致しない。）

所属等	人数
障害当事者・家族	28名
相談支援事業所	58名
障害福祉サービス等事業所	42名
就労支援機関等	11名
医療機関	4名
入所施設等	8名
地域自立支援協議会委員等関係者	38名
民生委員・児童委員	6名
行政	38名
その他	11名

(2) 聴講者 41名

- ・東京都自立支援協議会委員
- ・東京都自立支援協議会連絡調整会議委員
- ・東京都心身障害者福祉センター職員
- ・東京都自立支援協議会委員及び登壇者の支援者

## 2 プログラム

**テーマ 障害のある人とつくる「みんなが暮らしやすい社会」  
～「わたしたち」の社会を豊かにするために～**

### 第1部 多様性を生きるわたしたち ～障害者のリアルに迫りながら～

<講師>

野澤 和弘 氏（植草学園大学客員教授、一般社団法人スローコミュニケーション代表、毎日新聞論説委員）

(概要)

多様化した社会の中での合理的配慮の意味や意義、バリアフリー化を進めた例、「障害者のリアルに迫る」というゼミでの学生の話等

- ・障害のある方や生きにくさを抱えた人達への合理的配慮は一般の人にもいい影響が広がる。
- ・障害者の特性に働きやすい環境をあわせることが一般の人にも広がり、働き方改革にもつながる。
- ・インクルーシブ教育を行う中でも、自閉症の子供などには細かい合理的配慮は必要
- ・「一般社団法人スローコミュニケーション」は知的障害のある方にわかりやすい情報を研究、開発する団体。多様性のある社会に通用するような文章表現を考えている。
- ・多様性というものが社会に求められており、障害のある方たちがそれを担っている。

### 第2部 障害のある人のホンネ：「暮らしやすい社会」とは？

～いろんな視点から社会を見つめてみると～

<パネリスト>

内布 智之 氏（一般社団法人 日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構 代表理事）

小倉 千明 氏（東京都自立支援協議会委員、社会福祉法人東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 本人部会代表）

宮本 浩史 氏（社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 立川福祉作業所 所長）

道見 美由紀 氏

<コメンテーター>

野澤 和弘 氏（植草学園大学客員教授、一般社団法人スローコミュニケーション代表、毎日新聞論説委員）

<コーディネーター>

(概要)

当事者及び支援者それぞれの立場から、「暮らしやすい社会」とは何か、日々の暮らしの中で感じていること、こうしてほしいと思っていることに等について発表、ディスカッション